

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・新・家庭基礎	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を身につけさせる。</li> <li>・家庭や地域及び社会の生活の中から課題を設定し、解決策を考え、実践し、考察したことを論理的に表現するなど、課題を解決する力を育てる。</li> <li>・実践的・体験的な学習活動を通して、自分や家庭・地域生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。</li> </ul>		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	・家庭科を学ぶ意義	・人や社会との関わりや衣食住について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。	
1. 持続可能な生活を営む	・持続可能な社会を目指して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解することができる。</li> <li>・持続可能な社会へ参画することの意義について理解することができる。</li> </ul>	
2. 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生を展望する</li> <li>・目標を持って生きる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解することができる。</li> <li>・生涯発達の視点で青年期の課題を理解することができる。</li> </ul>	
3. 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生をつくる</li> <li>・家族・家庭を見つめる</li> <li>・これからの家庭生活と社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めることができる。</li> </ul>	
4. 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活と福祉</li> <li>・社会保障の考え方</li> <li>・共に生きる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。</li> </ul>	
5. 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活の変遷と住居の機能</li> <li>・安全で快適な住生活の計画</li> <li>・住生活の文化と知恵</li> <li>・これからの住生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。</li> </ul>	
6. 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集・比較と意思決定</li> <li>・購入・支払いのルールと方法</li> <li>・消費者の権利と責任</li> <li>・生涯の経済生活を見通す</li> <li>・これからの経済生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解するとともに、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解することができる。</li> </ul>	
7. 夏休みの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクト計画</li> <li>・ホームプロジェクト発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。</li> </ul>	
8. 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を育む</li> <li>・子どもの育つ力を知る</li> <li>・子どもと関わる</li> <li>・これからの保育環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる。</li> </ul>	
9. 超高齢社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢・大衆長寿社会の到来</li> <li>・高齢期の心身の特徴</li> <li>・これからの超高齢社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けることができる。</li> </ul>	
10. 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の課題について考える</li> <li>・食事と栄養・食品</li> <li>・食品の選択と安全</li> <li>・生涯の健康を見通した食事計画</li> <li>・調理の基礎</li> <li>・食生活の文化と知恵</li> <li>・これからの食生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。</li> <li>・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けることができる。</li> </ul>	
11. 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の役割を考える</li> <li>・被服を入手する</li> <li>・被服を管理する</li> <li>・衣生活の文化と知恵</li> <li>・これからの衣生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。</li> <li>・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。</li> </ul>	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・新・家庭総合	4	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の主體的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けさせる。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けさせる。</li> <li>様々な人々と協働し、課題の解決に主體的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</li> </ul>		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科を学ぶ意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人や社会との関わりや衣食住について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。</li> </ul>	
1. 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活の課題について考える</li> <li>食事と栄養・食品</li> <li>食品の選択と安全</li> <li>生涯の健康を見通した食事計画</li> <li>調理の基礎</li> <li>食生活と文化と知恵</li> <li>これからの食生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解することができる。</li> <li>ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。</li> <li>おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けることができる。</li> </ul>	
2. 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生を展望する</li> <li>目標を持って生きる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めることができる。</li> <li>生活の営みに必要な生活資源について理解しているとともに、情報の収集・整理が適切にできる。</li> </ul>	
3. 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生をつくる</li> <li>家族・家庭をみつめる</li> <li>これからの家庭生活と社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解しているとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めることができる。</li> <li>家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解しているとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めることができる。</li> </ul>	
4. 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を育む</li> <li>子どもの育つ力を知る</li> <li>子どもと関わる</li> <li>子どもとの触れ合いから学ぶ</li> <li>これからの保育環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付けることができる。</li> <li>子どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子どもの福祉について理解を深めることができる。</li> </ul>	
5. ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームプロジェクト計画</li> <li>ホームプロジェクト発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。</li> </ul>	

6. 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の役割を考える</li> <li>・被服を入手する</li> <li>・被服を管理する</li> <li>・被服を作る</li> <li>・衣生活の文化と知恵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めることができる。</li> <li>・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解しているとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。</li> <li>・被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けることができる。</li> </ul>
7. 超齢者社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢・大衆長寿社会の到来</li> <li>・高齢期の心身の特徴</li> <li>・高齢者の自立を支える</li> <li>・これからの超高齢社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身に付けることができる。</li> <li>・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めることができる。</li> </ul>
8. 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活について考える</li> <li>・住生活の計画と選択</li> <li>・住生活の文化</li> <li>・これからの住生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深めることができる。</li> <li>・ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。</li> <li>・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できる。</li> </ul>
9. 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活と福祉</li> <li>・社会保障の考え方</li> <li>・共に生きる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。</li> <li>・家庭と地域との関わりについて理解しているとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めることができる。</li> </ul>
10. 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会を目指して</li> <li>・一人一人の力で社会を動かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深めることができる。</li> </ul>
11. 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の収集・比較と意思決定</li> <li>・購入・支払いのルールと方法</li> <li>・消費者の権利と責任</li> <li>・生涯の経済生活を見通す</li> <li>・家計をマネジメントする</li> <li>・これからの経済生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計の構造について理解しているとともに生活における経済と社会との関わりについて理解を深めることができる。</li> <li>・生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理が適切にできる。</li> <li>・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めているとともに、生活情報の収集・整理が適切にできる。</li> <li>・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解しているとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めることができる。</li> </ul>
12. これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活をデザインする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察するとともに、生活資源を活用した生活設計について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。</li> </ul>

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・生活産業基礎	2		生活産業基礎(実教出版)
科目の概要と目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目標とする。		
単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1. 「生活産業」を学ぶに当たって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの社会的な意義や役割</li> <li>・職業人に求められる倫理観</li> <li>・産業構造の変化と課題</li> <li>・生活産業の意義と役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人として働くことの社会的な意義や役割について理解することができる。</li> <li>・産業構造の変化について課題を発見し、生活産業を担う職業人としてその解決に向けて考察することができる。</li> <li>・生活産業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組むことができる。</li> </ul>	
2. ライフスタイルの変化と生活産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化とライフスタイルの多様化</li> <li>・生活産業の発展と伝統産業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化に伴いライフスタイルが多様化し、人々のニーズに対応して生活産業が発展していることについて理解することができる。</li> <li>・生活産業と日本の伝統産業における課題を発見し、その解決に向けて考察することができる。</li> <li>・ライフスタイルの変化と生活産業について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> </ul>	
3. ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者ニーズの把握</li> <li>・商品・サービスの開発及び販売・提供</li> <li>・関係法規</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者のニーズを的確にとらえることの必要性和、商品を企画し、提供していく上で必要なマネジメントの手法、関係法規の概要や趣旨を理解し、関連する技術を身につけることができる。</li> <li>・消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。</li> <li>・ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> </ul>	
4. 生活産業と職業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活関連分野</li> <li>・衣生活関連分野</li> <li>・住生活関連分野</li> <li>・ヒューマンサービス関連分野</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭に関する学科に関連した産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。</li> <li>・生活産業に関する職業に就くための課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。</li> <li>・生活産業と職業について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> </ul>	
5. 職業生活と自己実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業選択と自己実現</li> <li>・社会の変化と職業生活</li> <li>・将来設計と進路計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活産業に関わる職業人に求められる資質・能力、役割や責任、職業資格などについて理解し、関連する情報を収集・整理することができる。</li> <li>・適切な進路選択と専門性の向上を目指す上での課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫することができる。</li> <li>・職業生活と自己実現について自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</li> </ul>	



教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・家庭基礎	2	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	
科目の概要と目標	人間の一生と家族、福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上をはかる能力と実践的態度を身につけさせる。		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	・家庭科を学ぶ意義	・人や社会との関わりや衣食住について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。	
1. 自分らしい人生をつくる	・生涯発達の視点 ・青年期の課題 ・目標を持って生きる ・人生をつくる ・家族・家庭をみつめる ・これからの家庭生活と社会	・各ライフステージの特徴と課題を理解することができる。 ・青年期の自己管理のあり方を考えることができる。 ・現代の家庭の機能、家族を考えることができる。 ・家族や労働についての基本的な法律を理解することができる。	
2. 食生活をつくる	・食生活について考える ・食事と栄養・食品 ・食生活の安全と衛生 ・生涯の健康を見通した食事 ・調理の基礎	・食べることを意味を知ることができる。 ・自分の食生活をふり返り、問題点を見つけることができる。 ・五大栄養素の特徴を知り、まとめることができる。 ・食品の特徴や調理の手順を考えながら、基礎的な調理技術を身につけることができる。	
3. 夏休みの課題	・ホームプロジェクト計画 ・ホームプロジェクト発表	・自分や家族の生活改善のためのホームプロジェクトを計画・実践・発表することができる。	
4. 衣生活をつくる	・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・これからの衣生活	・被服の機能を理解し、目的にあった被服の購入、着方ができる。 ・被服の素材の種類と性能を理解し、購入に生かすことができる。 ・「取り扱い絵表示」の意味、洗濯方法や洗剤の働き、漂白を理解し、適切な被服管理をすることができる。 ・衣服のリサイクル例、収納法を発表することができる。	
5. 子どもと共に育つ	・子どもの育つ力を知る ・親として共に育つ ・子どもとの触れ合いから学ぶ ・これからの保育環境	・子どもの魅力・世界をイメージすることができる。 ・子どもの心身の発達や生活、遊びの意義を理解することができる。 ・乳幼児期における親の役割の重要性を理解することができる。 ・地域の子育て支援策や児童福祉の理念を調べ、整理することができる。	
6. 高齢社会を生きる	・高齢者を理解する ・高齢者の心身の特徴 ・これからの高齢社会	・高齢者の心身の特徴や生活を理解し、高齢者を肯定的にとらえることができる。 ・高齢社会の現状と課題、高齢者の生活を把握し、考えを深めることができる。 ・高齢者の生活支援や高齢者福祉について調べ、まとめることができる。	
7. 住生活をつくる	・住生活について考える ・住生活の計画と選択 ・これからの住生活	・住まいの働きや現代の住まいの特徴を理解することができる。 ・家族のライフスタイルやライフステージにあった住居を選択することができる。 ・健康的で安全な住まいについてまとめることができる。	
8. 経済生活を営む	・職業生活を設計する ・計画的に使う ・国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ・消費行動と意思決定 ・現代の消費社会 ・これからの消費生活と環境	・経済について関心を持ち、家計収支の構成や特徴を理解することができる。 ・多様な販売方法について理解し、適切な判断、対応をすることができる。 ・消費者被害の例を知り、消費者の権利と責任について理解することができる。	

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・家庭総合	4	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、家族や家庭の生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえ、マネジメントする能力を身につけさせる。</li> <li>・実習や課題研究を重視し、自発的な学習態度や問題解決の能力を身につけさせる。</li> </ul>		
単元	学習内容	到達度目標	
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科を学ぶ意義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や社会との関わりや衣食住について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。</li> </ul>	
1. 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活について考える</li> <li>・食事と栄養・食品</li> <li>・食生活の安全と衛生</li> <li>・生涯の健康を見通した食事</li> <li>・調理の基礎</li> <li>・食生活と文化</li> <li>・これからの食生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ライフステージにおける食生活の特徴や課題について理解できる。</li> <li>・青年期の食生活の特徴と重要性を理解できる。</li> <li>・日常用いられる食品の栄養的特質や、調理上の性質について理解できる。</li> <li>・食事の計画を立て、調理実習を通して様々な調理の技法を習得することができる。</li> <li>・安全と環境に配慮し、主体的に食生活を営む態度を身につけることができる。</li> <li>・食文化に関心を持つことができ、日常の食事のみならず様々な地域や外国の食文化についても関心を広めることができる。</li> </ul>	
2. 自分らしい人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達の視点</li> <li>・青年期の課題</li> <li>・目標を持って生きる</li> <li>・人生をつくる</li> <li>・家族・家庭をみつめる</li> <li>・これからの家庭生活と社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期の課題である自立や男女の平等と協力などについて認識し、生涯を見通した青年期の生き方について考えることができる。</li> <li>・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉について理解できる。</li> </ul>	
3. 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を育む</li> <li>・子どもの育つ力を知る</li> <li>・親として共に育つ</li> <li>・子どもとの触れ合いから学ぶ</li> <li>・これからの保育環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達と生活、福祉について理解することができる。</li> <li>・親の役割と保育の重要性について理解し、子どもを生み育てることの意義や子どもとのかかわる重要性について関心を持つことができる。</li> </ul>	
4. ホームプロジェクトと学校家庭クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクト計画</li> <li>・ホームプロジェクト発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や家族の生活改善のためのホームプロジェクトを計画・実践・発表することができる。</li> <li>・自己の家庭生活や地域の生活と関連させて生活上の課題を設定し、解決のための計画立案、実践できる能力を身につけることができる。</li> </ul>	

単元	学習内容	到達度目標
5. 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の役割を考える</li> <li>・被服を入手する</li> <li>・被服を管理する</li> <li>・被服を作る</li> <li>・衣生活の文化と知恵</li> <li>・これからの衣生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と衣服のかかわりを衣生活の文化と関連して考え、理解することができる。</li> <li>・被服の機能、着装、被服管理について、被服材料や被服の構成とかかわって科学的に理解することができる。</li> <li>・安全と環境に配慮し、主体的に衣生活を営む態度を身につけることができる。</li> <li>・興味・関心をいかして、衣服の製作につながる縫製技術を習得することができる。</li> </ul>
6. 高齢者社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期を理解する</li> <li>・高齢者の心身の特徴</li> <li>・高齢者を支える</li> <li>・これからの高齢社会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の心身の特徴や高齢社会の現状、福祉について理解することができる。</li> <li>・高齢者の自立生活の支援の方法や豊かな高齢期を迎えるしくみについて考えることができる。</li> </ul>
7. 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活について考える</li> <li>・住生活の計画と選択</li> <li>・住生活の文化</li> <li>・これからの住生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、地域及び社会で支え合う暮らしについて考えることができる。</li> <li>・住居の機能、住空間の計画、住環境、住文化について理解することができる。</li> </ul>
8. 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活と福祉</li> <li>・共に生きる</li> <li>・社会保障の考え方</li> <li>・ユニバーサルデザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの有無、性別、年齢に関わらずお互いの違いについて認め合い、共によりより生活を営む方法を考えることができる。</li> </ul>
9. 生活を設計する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を見通す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のこれからの家庭生活を設計し、社会の一員として自立について考えることができる。</li> </ul>
10. 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業生活を設計する</li> <li>・計画的に使う</li> <li>・国民経済・国際経済と家庭の経済生活</li> <li>・消費行動と意思決定</li> <li>・現代の消費社会</li> <li>・消費者の権利と責任</li> <li>・これからの消費生活と環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済生活について理解し、生涯を見通した経済管理や計画の重要性について認識することができる。</li> <li>・職業や雇用形態による働き方や経済力の違いについて理解し、自己の卒業後の進路について考えることができる。</li> <li>・収入と支出をもとに家計管理の方法を考えることができる。</li> <li>・消費生活においての問題について理解し、トラブルを避けるための行動について関心を持つことができる。</li> </ul>

教科・科目	単位数	教科書	使用教材
家庭・課題研究	2		課題研究メソッド Start Book (啓林館)
科目の概要と目標	家庭の様々な分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化・統合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を育てる。		
単 元	学 習 内 容	到 達 度 目 標	
1. 「課題研究」を学ぶにあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題研究」を学ぶ目的</li> <li>・「課題研究」とは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉科に入学してきた意義を理解できる。</li> <li>・「課題研究」を学ぶにあたって、学習の意義や内容等を理解できる。</li> </ul>	
2. 情報の収集と整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の種類と信頼性</li> <li>・情報の集め方</li> <li>・キーワードの重要性</li> <li>・文章のビジュアル化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報源の種類と信頼性を理解できる。</li> <li>・インターネット検索や本の検索システムを理解できる。</li> <li>・キーワードの抜き出し方を理解できる。</li> <li>・文章を図示する方法を理解できる。</li> </ul>	
3. 研究テーマの決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味、関心のビジュアル化</li> <li>・研究テーマの分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを用いて、キーワードとそれに関連する言葉を整理できる。</li> <li>・研究テーマを決めることができる。</li> </ul>	
4. 仮説を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査、実験の準備</li> <li>・仮説を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査、実験が必要な内容を整理できる。</li> <li>・仮説とその根拠をまとめることができる。</li> </ul>	
5. 調査、実験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の実施</li> <li>・実験</li> <li>・中間発表の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート内容を精査できる。</li> <li>・調査対象に向けたアンケートを作成することができる。</li> <li>・実験に必要な材料を準備し、計画的に実行することができる。</li> <li>・中間報告に向けて、情報を整理して発表することができる。</li> </ul>	
6. まとめ、発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の課題に対する研究の成果を集録にまとめることができる。</li> </ul>	